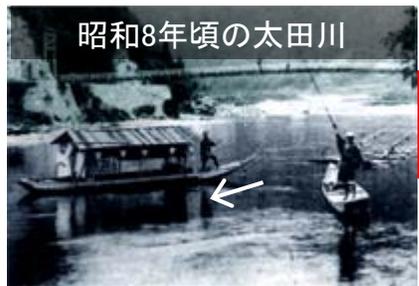


# 7.1 発電利用と減水区間(1)



**減水区間(約60km)  
幹線流路延長の約6割**



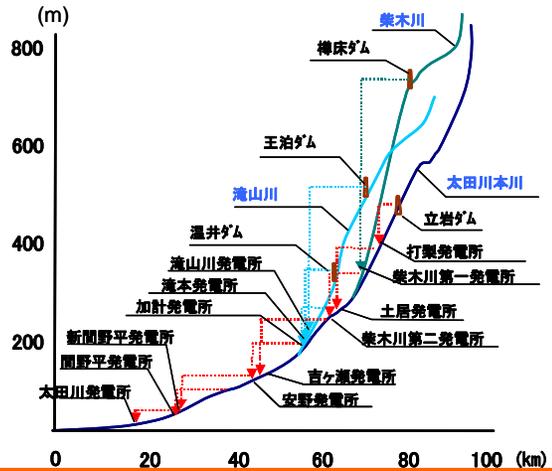
## ○ガイドライン放流(発電ガイドライン)

昭和63年河川環境の改善を目指し国土交通省と経済産業省との間で合意を得たもので、発電用ダム等の下流減水区間で河川維持流量を流すことにより、河川環境に最低限必要な河川流量の確保に努める。

# 7.2 発電利用と減水区間(2)

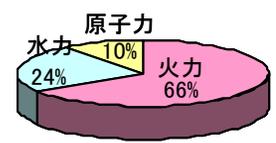
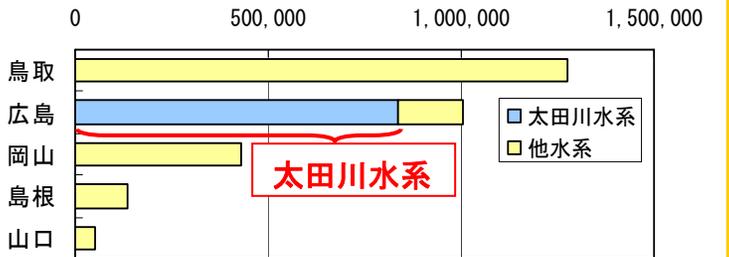
## 急な河川勾配と高度な水利用

・蛇行する河川をショートカットすることで、大きな落差が発生



## 暮らしを支えるクリーンエネルギー

・広島県内の水力発電の最大出力100万kWh (中国地方第2位)  
 ・広島県内の太田川水系の割合83%



参考1: 太田川水系の総発電量は広島市南区の1年の消費電力に相当  
 参考2: 中国電力の水力発電(最大出力)の割合は約1/4

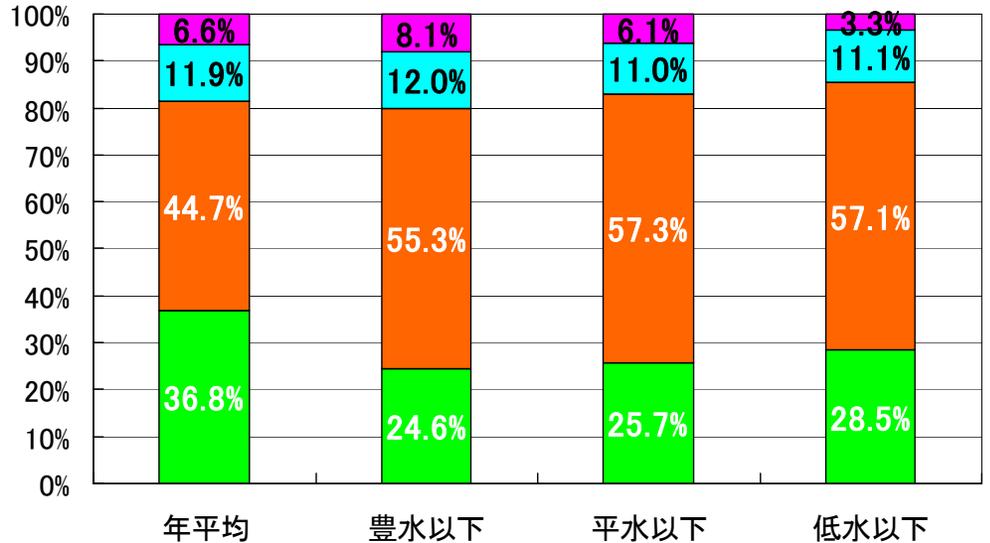
出典: 中国電力パンフレットより

## 高瀬堰流入量に占める用途別流量割合

・高瀬堰の流入量の約半分は 太田川発電所からの放流水  
 ・太田川を流れる倍の量の水が導水路(発電利用)を流れる



高瀬堰上流の様子



■ 太田川を流れてくる量(中野地点)    ■ 導水路を流れてくる量(太田川発電所)  
 ■ 土師ダムから流れてくる量(可部発電所)    ■ 根谷川・三篠川等から流れてくる量

### 高瀬堰流入量に占める用途別流量割合 (平成12年～平成15年の流況・取水量資料に基づく)

注1) 高瀬堰地点における流況別流入量(平成12～平成15年の平均値)は次のとおり。  
 平均流量: 65m<sup>3</sup>/s、豊水流量: 44m<sup>3</sup>/s、平水流量: 33m<sup>3</sup>/s、低水流量: 25m<sup>3</sup>/s  
 注2)  
 豊水流量: 年間95日は利用できる流量    平水流量: 年間185日は利用できる流量  
 低水流量: 年間275日は利用できる流量    濁水流量: 年間355日は利用できる流量